

大東亜戦争で日本は世界をいかに変えたか 加瀬英明（外交評論家・本会代表）

皆さん「こんばんは」、という時間になりました。今日はセナカ先生、有難うございました。特に私の父に触れていただきまして、ありがとうございました。

父は昭和20年9月2日、私の家族にとって屈辱の日であります。降伏の使節の一員として、マッカーサーが傲然と立っている前に重光全権が降伏文書に調印されていて、その隣に立っているのが、42才の私の父です。

セナカ先生が私の著書の一部を紹介してくださいました。父は101才で他界しましたが、私の顔を見るとよく言っていました。「この間の戦争は、戦闘は負けたが、アジア・アフリカの民を解放したから、戦争には勝った。」

私はテレビを見て泣くことは滅多にありませんが、皆さんも同じ体験をなさったと思います。今年9月に米国の女優のメーガンさんと英国ヘンリー王子が盛大な結婚式・華燭の典をウィンザー城の教会で行われました。英国の王家はウィンザー家と呼ばれていて、ウィンザー城が本拠地です。ウィンザー城の教会に向かうおとぎ話のような馬車が銀色に輝く甲冑を身に着けた近衛兵に守られて行くところを見ているうちに、深く感動いたしました。

式では、米国の黒人牧師が招かれて黒人訛りの英語で、愛がいかに大切かを説教台から訴えました。

やはり米国から招かれた黒人の聖歌隊が「スタンドバイミー（イエスとともに歩め）」黒人霊歌を歌った時、私は感動して涙が溢れました。皆さんも同じ思いをされたのではないかと思います。

メーガンさんは、父が白人、母がアフリカ系の黒人です。英国王家の長い歴史のなかで、黒人が承継順位六位のヘンリー王子の後になるという事は、全く考えられないことでした。

これも日本が大きな犠牲を払って先の大戦を戦い、アジアが解放され、その高い波がアフリカ大陸を洗って、アフリカの植民地が次々に独立したことによるものです。

私は1950年代末に米国、コロンビア大学に留学しました。あの頃の米国の黒人は選挙権を否定され、白人が利用するホテルやレストランに黒人が入れば、リンチにあい、水飲み場や便所も、白人用と黒人用は区別されていました。

しかし、アフリカの諸民族が独立してニューヨークの国連に、ワシントンで各国の大使館ができ、黒人の外交官が堂々と、米国の黒人が利用できなかったホテルやレストランに出入りする。すると、ようやく米国の黒人が立ち寄るようになりました。

マーチン・ルーサー・キング牧師による公民権運動が60年代実を結びましたが、それまで白人と黒人が性関係を結ぶのは犯罪であったし、ましてや結婚は許されませんでした。差別は酷いものでした。黒人の野球選手が、米国のメジャーリーグで活躍できるようになったのは戦後です。

私が米国の大学に留学していた時は、黒人はゴルフコースにキャディーしか入ることは許されませんでした。テニスの大坂なおみ選手は大活躍していますが、黒人がテニスコート

に入ることを許されたのは、清掃員と球拾いでした。

米国の女優のメーガンさんと英国のヘンリー王子の結婚式を見ながら、きっと天上から、広大な大東亜戦争の戦場で散華された英霊たちが喜納（かのう）されているのに違いないと思いました。そう思うと涙が止まりませんでした。

結婚式で、エリザベス女王、フリップ殿下、チャールズ皇太子が全員正装して、ヘンリー王子が黒人女性をお妃にした。日本の力で人種平等の理想の世界が実現したのです。長い人類の歴史で、最大の革命は何だったのでしょうか？ フランス革命、ロシア革命、産業革命、IT革命でしょうか？ 人種平等の世界が実現したことが、人類史上最大の革命だと思います。

今年は明治維新150年に当たります。感心することは、ペルリの海賊艦隊が浦賀に姿を見せた嘉永6年（1853年）から、明治元年（1868年）に明治維新を迎えるまで、なんと15年しかかかっていないことです。

日本は260年も続いた江戸幕府の体制を作り変えました。

そして、明治の新しい御代を迎えることができた。今年が平成30年ですが、来年4月に平成の御代は終わります。

私たちは何によって、平成を記憶することになるのでしょうか？ この30年で占領軍によって押し付けられた、屈辱的な現行憲法を変えることが出来なかった30年です。

私たちは、ペルリが日本に押し入ってから15年で日本を大きく作り変えることが出来ましたが、憲法ひとつ変えることができなかったのが平成の30年です。平成の30年間私を含めて、われわれは何をしていたのか？

幕末から明治にかけて日本国民は二つの大きな夢を持っていました。一つは西洋の帝国主義諸国に押し付けられた。屈辱的な不平等条約を改正することでした。

輸出入の関税を日本は決めることが出来なかった。横浜や神戸の港には外国軍隊が駐留していた。外国人に対する裁判権も持っていなかった。このような屈辱的な不平等条約を改正することでした。

もう一つは、幕末から明治かけて多くの武士が欧米に視察に行きました。船で往来する間に、同じアジアの民が西洋の白人によって、まるで牛馬か、奴隷のように酷使されているのを見ました。そして人種平等の世界の実現と、平等条約の改正という二つの大きな夢をいただきました。

不平等条約改正には、血のにじむような努力がおこなわれました。皆さんがご存知の鹿鳴館で、伊藤博文公以下、西洋のばかばかしい踊りを真似て、西洋衣装を着て、不平等条約の改正のために、日本も西洋と同じ文明国だということを示さねばならなかった。

江戸時代が終わるまで、葬式に白い服を着たものでした。明治政府は不平等条約を改正するために、葬儀に黒の服を着るように通達を出して、西洋の習慣に合わせました。私たちが条約改正に払った努力は大変なものでした。

明治の初年に文部省が全国の女学校に通達を出して、不平等条約の改正のため女子の立

小便を禁止しました。私は戦時中、母親に連れられて長野県に疎開していました。アゼ道で若い女性も立小便をしていたのを見ました。

インドネシアに仕事で通いましたが、ジャワ島の田舎で女性が道端で立小便をしていました。日本人と同じなのだと懐かしさを感じました。

外国の元首が日本に来訪されると宮中晩餐会が行われます。この時供せられる料理は、フランス料理です。中国では天安門広場に面した人民大会堂でシナ料理・中華料理が供せられます。韓国では韓国料理。タイではタイ料理。インドではインド料理です。どうして日本ではフランス料理なのでしょう。

1970年代に日本が西洋に追いつき並んだとされる時に、和食を出すべきだという人たちがいました。私は、未来永劫フランス料理を出し続けてほしいと言いました。屈辱的な不平等条約を改正するために苦勞をしたことを忘れないために、フランス料理をだすべきだと思います。

宮中晩餐会にフランス料理を出すようになったのは、日本料理は野蛮なものであって、こんな野蛮人と対等な条約は結べないということだったので、鹿鳴館を作り、西洋人を真似て、葬式に黒を着る、フランス料理を出したのでした、という苦勞を私たちは忘れてはなりません。

私たちが、どれほど人種平等の世界を夢見てきたか。先の大戦の大きな要因の一つとなったのは人種差別でした。

日本は神武天皇が即位された詔の中に、「八紘一宇」という言葉があります。一つ屋根の下に世界の人々がみな幸せに生きるという意味です。日本は人種差別と全く関係がなかった史を持っています。

先ほどセナカ先生が、私の父にふれて下さいましたが、父は先の大戦の開戦にいたった時の日本の外務省のアメリカ課長でした。東京から日米交渉を指揮しました、その時の外務大臣は朝鮮人の血を引いてました。

日本名は東郷茂徳（とうごうしげのり）と言って鹿児島の人ですが、戸籍では名前は朴茂徳。東京帝大法学部に入學したときに、朴を東郷に、ムトクをそのまま茂徳にかえました。

戦前朴春琴という衆議院議員が東京の下町から二期選出されています。江東区に朝鮮人も住んでいたが、圧倒的に日本人が多かった。

もし私たちが人種差別をしていたとするならば、朝鮮人が朝鮮名のまま東京の江東区から衆議院議員として2期にわたって、当選するはずがなかったでしょう。

日本人は人種差別を全くしてこなかった歴史を持ちます。歴史を通じて奴隷を持ったことがありません。私は慰安婦について有楽町にある日本外国特派員協会・外国人記者クラブで記者会見を行ったことがありました。慰安婦についての報道に対する反対の記者会見です。

米国の有力新聞の特派員が、「日本が若い女性を性奴隷にしてひどい目に合わせたというのは世界の常識になっている。あなたはその常識に逆らうようなことを言ってきたけど、許

されるのか」と質問してきました。

私は「日本が明治に入る直前まで奴隷制を行っていた国の記者から、そのような質問を受けたくない」と言ってやりました。150人ほどの記者が聞いていましたが、日本やアジアの記者が拍手をしてくれました。

今年の8月ジュネーブの国際連盟のパレ・ウィルソン（ウィルソン宮殿）で人種差別撤廃委員会対日審査委員会が行われました。日本を人種差別のひどい国ということから、審査するものです。韓国や米国、ベルギーの代表が日本をこき下ろすのです。外務省から大鷹審議官が率いる日本政府の一行が出席しました。大鷹氏は英語がうまい人です。

審議官が丁寧に説明するのです。それについては、日本政府は十分に謝罪しているとか、委曲を尽くして答弁しているので、弁明しているように聞こえる。私だったら、もっと攻撃的に日本に奴隷がいた歴史はないとそれぞれの国の弱点を突きます。

そして国連の人種差別撤廃委員会に私たちの税金を差し上げることはないです。馬鹿馬鹿しいことです。日本政府としてパレ・ウィルソンという名前を変えることを条件にして、分担金の支払いを止めるべきだと思います。

来年の2月13日は第一次世界大戦が終わって、講和会議であるパリ会議ーヴェルサイユ会議としても知られていますーが開かれました。このパリ会議で、米国のウィルソン大統領が提唱して戦後の世界を管理する国際連盟を作ることになり、日本の訪問団がその規約に人種差別撤廃の条項を入れることを提案しました。投票にかけると欧州の小国が加わって11対5で日本案に賛成しました。

ところがウィルソン大統領は、このような重大な案件は、全会一致で行うべきだといって、日本案を葬りました。

ウィルソンは白人至上主義にこり固まった人物で、米国における黒人差別をいっそう悪化させた大統領です。優生学的に有色人種は、白色人種に劣っていると説き、そうした演説も記録に残っています。優生学を信じたのは、ウィルソンと、ヒトラーです。

ウィルソン大統領は米国のプリンストン大学の学長を南木が務めました。プリンストンの白人学生も含めてウィルソンの銅像を撤去すべきだという運動が起こっています。1960年代に米議会はウィルソンセンターというシンクタンクを作っています。このセンターについても、ウィルソンの名は恥ずかしいので変えようという運動が起こっています。

ジュネーブのパレ・ウィルソンの日本の政府団は改名を要求すべきです。そうしなければ誰も建物に入るべきでないと主張すべきです。

日本人の平等の歴史は、日本という国が生まれる前の縄文時代に発していると思います。日本は人の和を尊ぶ国です。

私の希望的観測では来年から中国は崩壊へ向かうことになるでしょう。日本が中国に屈することがない限り、日本を中心とするアジアの時代、日本が世界を導く時代が必ずやってくると、信じています。一神教は行き詰まっています。セナカ先生も言われましたが、ナチスの人種差別は宗教差別でした。イエスの新しい約束である、新約聖書をお読みになると、

ユダヤ人は「悪魔の子だ、抹殺せよ」と書かれています。

ヒットラーは敬虔なカソリック教徒の息子でしたから、イエスの教えをそのまま行いました。欧州人がユダヤ人虐殺を千年近く行って来たのを、ドイツの高度な科学技術によって五百万人以上のユダヤ人を殺すことができました。

一神教は排他的であって、和を重んじるということがない。イスラム教のスニ派とシーア派という二大宗派が互いに相手を許すことが出来ずに、殺し合っています。日本は和を大切にしてきました。

和という言葉には、英語でも中国語でも朝鮮語でも訳すことができません。英語の上手な方に、どう訳すのかと聞くと、ハーモニーと答えます。

3人、4人、5人、6人の人がいて、「これから合わせよう」ということで、はじめて人が合わせるのが、ハーモニー（調和）です。

日本では、すでにこころを分かち合っている和があります。

これからは和の精神、神道の精神が世界を支配してゆかなければならないと思います。

最後に、日本がこれだけ世界で話題になっているのは久しぶりのことです。幕末から明治にかけて浮世絵、ジャポニズム、日本の意匠、建築などが西洋に大きな影響を与えました。しかしこれは視覚的なものでした。

しかし、いま日本が世界の心をとらえているのは、それだけではなくて、精神的なものも含めて、久しぶりに世界の人々の関心をとらえています。セナカ先生が言われたように日本が世界でもっとも大きな革命を行いました。人種平等の世界を呼び寄せたのは私たちです。しかしそれをアジアの国から感謝を求めることは、私は、すべきではありません。

このような素晴らしい理想の世界をつくった英霊や戦犯者に対して、それよりも私たちは感謝すべきだと思います。

靖国神社、護国神社に参拝する時は、このような理想の世界を作った英霊、戦没者に感謝をしたいと思います。（了）